

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

『経済を読む力 2020年代を生

き抜く新常識』 小学館新書 大前研一

著 253頁 820円+税

本書で将来を読み解くヒントが得られると思います。一部をご紹介します。

★日本でハイパーインフレは起こるのか：アメリカの出方次第では国債暴落もあり得る。トランプ大統領がやろうとしているのは、国債をジャブジャブと市場に出し、景気を刺激することだ。これはアベノミクスの真似である。まともな経済学者やジャーナリストはトランプ政権の国債発行を攻撃する。それはすなわちアベノミクス批判に直結する。アメリカの国債発行が「NO」なら、日本もダメじゃないかと市場が気付いてしまう。市場が「日本の財政は綱渡りだ」と認定すれば、日本国債は即座に暴落する。

日本国債は9割が国内保有だから安全と言われるが1割は外国人が保有している。彼らが投げ売りを始めれば日銀は買い支えることができない。やはり暴落だ。

となるとハイパーインフレの可能性はある。

★ハイパーインフレに備える

①資源国の通貨でタンス預金：今のうちから日本円を資源国などの通貨に換金してタンス預金しておけば、有効な対策になる。

②資産を金、あるいは金に準ずる商品に換える：金の価格は上下するが、紙くずになりかねない円より安全。流動性の高い不動産や株でもよい。

③「稼ぐ力」を身に着ける：究極的にはこれしかない。モノではなく、「自分への投資」である。

★株価：官製相場で支えられている。2017年春以降は1万9千円から2万3千円台で

推移して、底堅いといわれている。この背景にあるのが日本銀行とGPIF（年金積立金管理運用独立法人）だ。日銀は上場投資信託を年間6兆円購入し、38兆円を保有している。上場投資信託市場の7割超である。GPIFは、160兆円の年金積立金の25%を国内株式に振り分けている。今や、これら二つを合わせたマネーが東証一部上場企業の3分の1の実質的な筆頭株主になっている。一方、海外のファンドは急速に日本から逃げ出している。このところ日本の企業、銀行や生命保険会社は持ち合い解消を進めているが、買っているのは日銀とGPIFなのである。ババ抜きのパバをつかんでいるようなものだ。

★リブラ：フェイスブックなどが構想を打ち出した仮想通貨。従来の仮想通貨とは全く違う。価値が変動しにくい設計になっており、グローバル通貨の最有力候補だ。

★成長ビジネスの新たな潮流：シェアエコノミー、アイドルエコノミーが新ビジネスの主流になる。シェアエコノミーは、誰かが所有しているモノや空間を複数の人間で共有すること。アイドルエコノミーは、空いているモノや空間を活用すること。スマホのアプリを利用した配車サービスの「ウーバー」、空いている個人の部屋や家を貸し借りする「エアビーアンドビー」が有名。飲食店の料理を配達する「ウーバーイーツ」もある。

★フィンテック革命：フィンテックはファイナンスとテクノロジーを合わせた造語だが、本質は、送金、投資、決済、融資、預金といったファイナンスのあらゆる領域をテクノロジーが再定義し、これまで金融機関がやっていたことを金融機関ではない企業が奪っていくということだ。ICカードや電子マネーに互換性を持たせて「人の動き」につなげれば、ビジネスチャンスは拡大する。

この月刊サワネを、お知り合いの方に見せてあげてください、きっと喜んでいただけます。

自分への投資

前項で大前氏が、ハイパーインフレに備える最善の方法は自己投資だと言っていました。自己投資、でもどうすればいいのか。ネットで、大前氏の勧める自己投資を検索してみました。簡単にご紹介します。

「今年こそは」と新年の決意をする人は少なくないだろう。だが、決意を新たにしたりで人はそうそう変わらない。自分を変えるにはどうしたらいいか。私が昔から使っている簡単な方法が3つある。

「自分を変革する」3つの方法

時間配分を変える

住む場所を変える

付き合う人を変える

・時間配分を変える

去年の手帳を取り出して見直す。会合や会食などに費やした時間で、自分が貢献した、勉強になった、ネットワークが広がった、など何らかの有意義な時間は5%もあればいいところだろう。一言も発言の機会がなかったとか、お付き合いで出ただけとか、つまり無駄に使った時間が50%以上ではないだろうか。どんなに忙しい人でも大体そんなモンだ。

「時間配分を変える」とはそうした時間を「余った時間」として認識し、やりたいこと、やらなくてはいけないことに積極的に配分していくことだ。

仕事のない土日。「自分はこういう能力を身に付けたい」「こういう活躍をしたい」という目標を持っている人にとって、まとまった時間が確保できる土日は一番肥沃な土壌だ。

時間配分を変えるためには、どんなことに時間を使いたいのかを明確にしておく必要が

ある。たとえば「世界経済の動向をもっと自分の肌感覚でつかめるようになっていたい」とイメージしたとしよう。海外に行かずとも、毎日欠かさずにNHK BS1の朝4時から7時までのワールドニュースを見るだけで1年後には相当な力がつく。

・住む場所を変える：住む場所を変えるだけで目線が変わるし、新しい発見がある。引っ越しが難しければ、通勤ルートを変える手もある。最短距離を探求するばかりではなく、時には時間を無視して電車やバスの路線を変えたり、乗換駅を変えたり、自宅から駅までのルートを変えてみる。やはり見えるものが違ってくる。歩いていても眼と頭が回転しているのがわかる。もっと言えば、目をつぶって歩くだけで見えてくる世界がある。普段頼りすぎている視覚情報を遮断して、聴覚や嗅覚、触覚で世界を感じるだけで頭が刺激されるのだ。

・付き合う人を変える

いつも付き合っている仲間や友人は、基本的には気が合う相手だろう。だが、気が合う人ぐらい役に立たない相手はいない。気の合う相手は人生の有難い友達として取っておいて、気が合わない人や社内ですぐぶつかる人と、あえて付き合う。飲みを誘う。よくよく話をしてみると、「そういう理屈があったのか」と意外な一面に気づいたり、自分にはない発想に出合えたりする。

付き合っただけで一番役立つ相手というのは、自分とはまったく違った発想をする人だ。それによって自分の発想力が磨かれるし、自分の論理に間違いがあれば気づく。

だから違う会社の人間や違う業界の人間と付き合うのもいい。とにかく付き合う人を変える。<https://president.jp/articles/-/17083>